No.55 あすなろだより

2016年６月１日

発行　三重県立小児心療センター　あすなろ学園　広報担当
〒514　0818 三重県津市城山１ 12 3　TEL.059 234 8700　FAX. 059 234 9361
ＭＡＩＬ: asunaro@pref.mie.jp ＵＲＬ:http://www.pref.mie.lg.jp/ASUNARO/HP/

ご挨拶

あすなろ学園長　金井　　剛

いよいよ平成29年６月に新センター（三重県立子ども心身発達医療センター）が開院されます。この６月には躯体がほぼ出来上がる予定です。30年余りの「あすなろ学園」としての歴史の第１幕が終了し、さながら第２幕が始まるということでしょうか。草の実リハビリテーションセンターや児童相談センター聴覚部門との合流、三重病院との連携、と第２幕は激しく慌ただしい舞台となりそうです。

このような大きな変革の時に、この４月から西田寿美前園長に代わり、あすなろ学園の園長を拝命いたしました。あすなろ学園に40年以上、園長として15年勤められた西田先生の後を継ぐこと、歴代の園長の偉大な業績を受け継ぐこと、あすなろ学園の歴史を引き継ぐこと、そして新たな幕開けに備えることと、未熟な自分が背負うものの大きさに身震いする思いがします。

横浜市大の児童精神科に８年３か月勤務した後、横浜市中央児童相談所に医務担当として13年、所長として２年在籍しました。児童相談所では、家庭訪問をし、施設に伺い、虐待をする保護者と向きあい、虐待された子どもに寄り添う充実した日々であったように思います。医師になった直後からやがて児童相談所で働くことを夢見ていましたので、定年までは児童相談所で働くつもりでした。東京に勤務した２年間を除き、医師としての30年以上を横浜市で過ごし、横浜への愛着も強いものがありました。

未だに何故あすなろ学園の園長をお受けしたか、自分でも判然としません。これまで自分で働きたいと思った場で必ず働くことができた幸運の中に、あすなろ学園はありませんでした。恩師の背を押す手紙、西田先生や清水先生のお誘いの魅力などがあったのかもしれません。

自分の中で動機の整理もつかないままあすなろ学園で働き始めて早１か月が経とうとしています。外来で出会う親子が、治療や支援を求めてあすなろ学園を目指し、あるいは転々として最後に辿り着きます。あすなろ学園はそのような場であるということを強く感じています。医師になって児童相談所を希望する契機となった、最初に感じた使命感のようなもの、それを今再び感じています。

自分の身の丈に合った生き方だけを模索してきた者ではありますが、身の丈に合わせながらも懸命にその使命を全うしようと思います。そのために皆様のお力をお貸しください、そして職員皆様の力が発揮できるよう努力いたします。

ご挨拶

あすなろ学園　前園長　西田　寿美

私は3月末、42年間働いてきたあすなろ学園を退職しました。顧みれば、1974年6月、高茶屋病院に就職した私は26歳の若さでした。それまでの青春時代のいろいろな体験から、人の心に強い関心を持つようになり、医学部後半、たまたまあすなろの子どもたちのことを知りました。そして、児童精神科の不思議な理不尽な世界に引き付けられていきました。

義務教育免除や猶予の対象であった自閉症の子どもたちを、「どんな障害のある人も人として当たり前の生活を地域で」と願った、十亀史郎先生の臨床の姿勢は、私の人生観を大きく変えるきっかけとなりました。さらに、あすなろでの入院治療によって成長してゆく子どもたちとの臨床の日々は、仕事へのさらなる興味を掻き立ててくれるものでした。

そして1985年、あすなろ学園は単科児童精神科医療施設として独立しました。しかし、その年の9月十亀先生は54歳の若さで亡くなられました。その後の混乱を引き継いだ稲垣先生、ご苦労をおかけしました。そういった中で、十亀先生の目指された「組織的治療」の意味を考えるようになったと思います。そして清水先生が就任され、治療組織体制の立て直しに取り組まれ、組織的治療の輪郭が私にイメージできるようになっていきました。

そして2001年4月、園長を引き継ぎました。当時の私にはその職務は重荷でしかなく、ある職員に「突っ走れるところまで突っ走るしかない」と言ったようですが、私は覚えていません。園長になって2年目までは無理して肩肘突っ張らせていたのでしょうか、血圧が高くなり肩こりがひどくなりました。

園長になって15年が経ちました。気が付くと自分の限界はあすなろという組織が補ってくれており、臨床への興味が苦労を面白さへと変えてくれていました。これが組織的治療だと今は実感しております。

個人的には子どもが好きで、たまたまのめぐりあわせで今日があるという感慨です。しかし、あすなろ学園というところで仕事をしなかったら、思春期に人間嫌いになっていた私が、人という存在の在りようの多様さと不思議さに、これほど心揺り動かされる体験もできなかったでしょうし、人の心の奥底の思いに心を通わせたいと心砕くこともなかったと思います。

たくさんの子どもと家族との出会いは、時々記憶の奥からよみがえり、老化現象で個別性はだんだん薄れてきていますが、家族のかけがえのなさとその重さはより確固たる印象となり、その重さに「押しつぶされないで」と願う思いもより強くなっています。そして、人が変わるときのきっかけの不思議さと感動が、貴重な思い出と希望として残っています。子ども臨床ならではの醍醐味から得た宝物です。

1964年、三重の地で日本最初の自閉症病棟が開設され、17名の小学生児童の入院治療が始まり、同志が増え、自閉症児への治療的取り組みが拡大していきました。当時は1万人に1人の発症率という疾患に対して、行政の理解のきっかけになったことは私たちの誇りとするところです。長年医療保険からは認知されない分野でしたが、自閉症が４％を超えるかもという時代、医療保険に認知され始め、赤字も減少する目途もたちはじめました。

三重県でも18歳未満の人口が50年前と比べると40％も減少し、どんな子どもも、その存在の重さとかけがえのなさを一人ひとり大切に、みんなで育てなくてはいけない時代にもなってきました。

来年の6月にはあすなろ学園は草の実リハビリテーションと児童相談所聴覚訓練部門と合併して「子ども心身発達医療センター」となり、三重病院の地に移転します。

新園長金井剛先生のもと、さらなる「子ども臨床」の発展を祈念しております。

追伸　4月からは、非常勤医としてもうしばらく、あすなろで外来診療をさせて頂く予定です。

三重県立子ども心身発達医療センターの整備進行状況報告

2014年３月20日付け「あすなろだより」49号で新施設の基本設計の概要をお知らせしました。新センター開院まで残り１年を切ろうとしています。今回は、整備状況の近況を報告します。

前回のお知らせでは新センターの名称が仮称となっていました。県議会平成28年定例会２月定例会議にて新センターの設置条例が可決され、名称を「三重県立子ども心身発達医療センター」と決定しました。

１．工事の進み具合について

新センター棟工事は、平成28年４月下旬に３階立上工事、５月下旬に４階立上工事、７月から屋上階の立上工事開始を見込んでおり、毎週の定例会議、月初めの総合定例会義を行い、工事の進捗を管理しています。概ね計画通りの進み具合で、６月末の全体進捗率は48.2%を予定しています。

特別支援学校棟工事は、立地の関係から先行しており６月末にコンクリート工事終了予定で進んでいます。外装・内装工事を行い、工事完了検査を受けた平成29年３月下旬に建物の引き渡しを受けます。その後２か月間の開院準備期間を設け、平成29年６月に開院します。

２．教育環境も大きく変わります

新センターに併設する学校として、新しい県立特別支援学校を設置し、現在の津市立高茶屋小学校あすなろ分校と津市立南郊中学校あすなろ分校を「あすなろ校」に、県立城山特別支援学校草の実分校を「草の実校」に、県立緑ヶ丘特別支援学校を「緑ヶ丘校」に改編します。

校名も新しく「三重県立かがやき特別支援学校」と決定しました。法的な要件から三重県立かがやき特別支援学校は、平成29年４月に開校します。４月、５月はそれぞれ現在の校舎を使用し、新センター開院と同時に真新しい校舎で教育内容もレベルアップし、楽しく勉強していただきます。

新センターの運営組織については、公務員全体の削減の流れに沿って、「選択と集中」により体制や人員を配置することになります。どこかを膨らませばどこかが凹みます。これまでのあすなろ学園が積み重ねてきたノウハウを時代の要請に合わせつつ、限られた人的資源の中で、皆様を支援し続ける「子ども心身発達医療センター」として新しい一歩を踏み出します。

■案内図

お知らせ

あすなろ学園のこれまでの歴史をまとめた『あすなろの30年～三重県立小児心療センターあすなろ学園 30 年史～』を作成しました。「あすなろ」の歩みをもっと知りたいと思われる方は、医療連携室までお問い合わせください。

第23回あすなろ学園 シンポジウム

テーマ：三重県における地域子育ての歴史と未来
日　時：平成28年8月26日（金）13時から16時
場　所：三重県総合文化センター　文化会館　中ホール

＝プログラム＝
●講　演
「子どもは育つ～育ちの道には個性がある～」
●講　師
清水　將之　三重県特別顧問（こども・家庭局）

～シンポジウム～
「子どもたちの未来を語る」

シンポジスト
●中西大介（あすなろ学園　医師）
●松岡宏樹（鈴鹿市　子ども政策部　子ども家庭支援課）
●樋口徹也（志摩市　健康福祉部　こども家庭課）

// 司　会 //
金井　剛（あすなろ学園　園長）

新任医師のご紹介

加藤あい　医師

はじめまして。平成28年5月から児童精神科後期レジデントとして勤務しています、加藤あいと申します。三重県の津市で生まれ、その後は紀伊長島町（現在の紀北町）で育ち、高校生活は伊勢市で過ごしました。趣味は映画観賞なので、高校時代は廃部寸前の映画同好会で会長をし、映画館の匂いも大好きで、大学時代は映画館でチケットのもぎりやスクリーンチェックのバイトをしていた経験もあります。田舎ものの私としてはフィルムの向こうの世界は憧れでした。蛙や虫の鳴き声がないと安眠できない私ですが、大学卒業後に上京し、都内で初期研修を終え、ここに来る前は関東の大学病院の精神科で働いていました。小学校低学年頃から周囲とのやり取りの中で人が発する（取分け大人たちの）言葉や態度が、例え何気ないものでも、小さな体の狭い世界しかまだ知らない子供たちにはとても大きな影響になるということに興味を持ちました。周囲の環境で将来の可能性を秘めた子ども達は如何様にでも育っていける。自分が大人になった時には少しでも子ども達の“将来への希望”と“持っている可能性”を最大限広げて社会へ自立していくお手伝いができる仕事に就きたいと思うようになりました。今ようやくその一歩をあすなろ学園で歩ませてもらえます。現在育児中の私は親の苦労を身に染みながら日々奮闘しています。子の立場にも、親の立場にも寄り添って治療の歯車の一つになれたらと思っています。どうぞ宜しくお願い致します。

外来診療のご案内

＊診察は完全予約制です。
都合により変更になる場合もあります。

●予約電話番号　**059−234−9700**

予約電話受付時間（月～金）　9：00～12：00　13：00～16：30

（平成28年5月1日現在）

曜日	月	火	水	木	金
1診	中島	金井		金井	大槻
2診	大槻	中西	石田	中西	柿元
3診		中村			
4診	柿元	中島	中野	大橋	中野
5診		西田	西田		